

■ 稚内港北防波堤ドーム技術検討委員会の開催

稚内開発建設部 稚内港湾事務所

稚内港北防波堤ドームは、北海道遺産、土木学会選奨土木遺産にも選定されている歴史的構造物であり、「わっかないみなとオアシス」の中核施設として市民や観光客に日常的に利用されている施設です。しかし、昭和 53～55 年にかけての大改修以後すでに 30 年以上経過し、コンクリート剥離劣化等の老朽化が顕在していることから、ライフサイクルコストを考慮した維持管理計画と適切な補修計画の策定が急務の課題となっています。このため、稚内開発建設部では、北防波堤ドームの施設現況の評価と維持管理及び補修計画の策定を目的とした「稚内港北防波堤ドーム技術検討委員会」（委員長：横田弘北海道大学工学院教授）を組織し、平成 26～27 年度の 2 か年で検討することになりました。

本年度の第 1 回委員会は、7 月 31 日に稚内市の「ANA クラウンプラザホテル稚内」で開催されました。最初に横田委員長から「非常に有名な構造物であり、個人的にもかねてから興味を持っていた施設です。北防波堤ドームの補修については、マニュアル化されていない技術も含め適切に補修し末永く使っていただきたい」と最初に挨拶がありました。

委員会の最初に、当該施設の建設及び改修・補修の経緯、全体調査計画、本年度の老朽化調査内容などが事務局により紹介されました。今回の委員会の主要な議題として、一つめのポイントとしては、本年度行う北防波堤ドーム港外側の調査方法及び留意点の確認が行われました。本年度の現地調査に先立ち、北防波堤ドーム床版部の劣化状況を把握するために、静電位等の非破壊試験と鉄筋のかぶりと錆状態を確認する試験が行われ、その速報値に基づき、調査間隔等の設定や調査項目の追加が審議・決定されました。

もう一つのポイントとしては、その部材の補修・交換の要否及びその優先順位を判断するための評価手法についてです。これについては、今年発刊された「港湾施設の点検診断ガイドライン」には、点検調査後の

劣化度の判定及び性能低下度の評価方法についてはそれぞれの構造物に応じて設定することとなっています。そこで、今回の委員会では、床版部を例にとり、部材を評価するための部材分割方法、性能を評価する安全性と使用性の係数設定、補修・交換の判断についての考え方が示され審議されました。

本年度の委員会は 3 回開催が予定されており、第 2 回は 12 月上旬開催の予定で、港外部の現況調査結果の報告と、評価方法について具体的なモデルケースをもとにした評価例を示すとともに評価方法の詳細について審議する予定です。



稚内ドーム委員会横田委員長



稚内ドーム委員会